

## 191201高松シオン教会礼拝宣教参考資料 創世記15章「さあ、天を見上げなさい」

〈テーマ〉

- 15章のテーマは「相続」
- 1-6節…「アブラハムの家の相続人」 7-21節…「カナンの土地の相続」
- 両者は別々の事柄ではなく一続きの事柄。なぜならアブラハムの家の相続人（つまりアブラハムの子孫）がカナンの地を相続することになるから。
- 「相続」を支えるものはアブラハムの「信仰」と神の「約束」。

### 1. アブラハムの家の相続人 1-6節

「私の家の相続人は、ダマスコのエリエゼルなのではないですか」

- 奴隷が主人の財産を受け継ぐことについて。ヌジ（メソポタミアの都市）文書（アッカド語で書かれた法律・経済文書など当時の風俗習慣を伝える数千の粘土板）によると、当時のフルリ人の制度では、二種の相続人（直接相続人と間接相続人）が明確に区別されている。直接相続人を欠く時、傍系の家族あるいは奴隷の中からさえ子として選定され、法的に認められた。

「ご覧ください」

- ヘブル語では「ご覧ください」が2回繰り返されている。

「あなた自身から生まれ出てくる者」

- 直訳「あなたの腹から出る者」
- 間接相続人ではなく、アブラハムの腹から出る子ども、直接相続人こそがアブラハムの相続人

「アブラハムは主を信じた。」

- 「信じる」はアーメンと同じ語源。

### 2. カナンの土地の相続 7-21節

「彼はそれらすべてを持って来て、真つ二つに切り裂き…」

- 当時、契約を交わす祭に、いけにえの間を歩いてから契約を結んだ。
- いけにえの間を歩くことの意味。もし契約を破棄したら、このいけにえのように八つ裂きにされても構わないという呪いの約束。ただアブラハムの時代にこのような意味をもっていたのかどうかは学者の間で意見がわかれている。

### 13-14節 アブラハムの子孫に対する預言～エジプトでの奴隷と出エジプト

15節 アブラハムの将来についての預言～幸せな晩年を過ごす

16節 アブラハムの子孫に対する預言～アブラハムの子孫がカナンの地に戻ってくる

「アモリ人の咎」

- アモリ人はカナンに住んでいた先住民。

### 18-21節

- 約束の地の範囲（地図5参照）

ソロモンは、大河からペリシテ人の地、さらには、エジプトの国境に至るすべての王国を支配した。これらの王国は、ソロモンの一生の間みつぎものを持って来て、彼に仕えた。Ⅰ列王記4:21